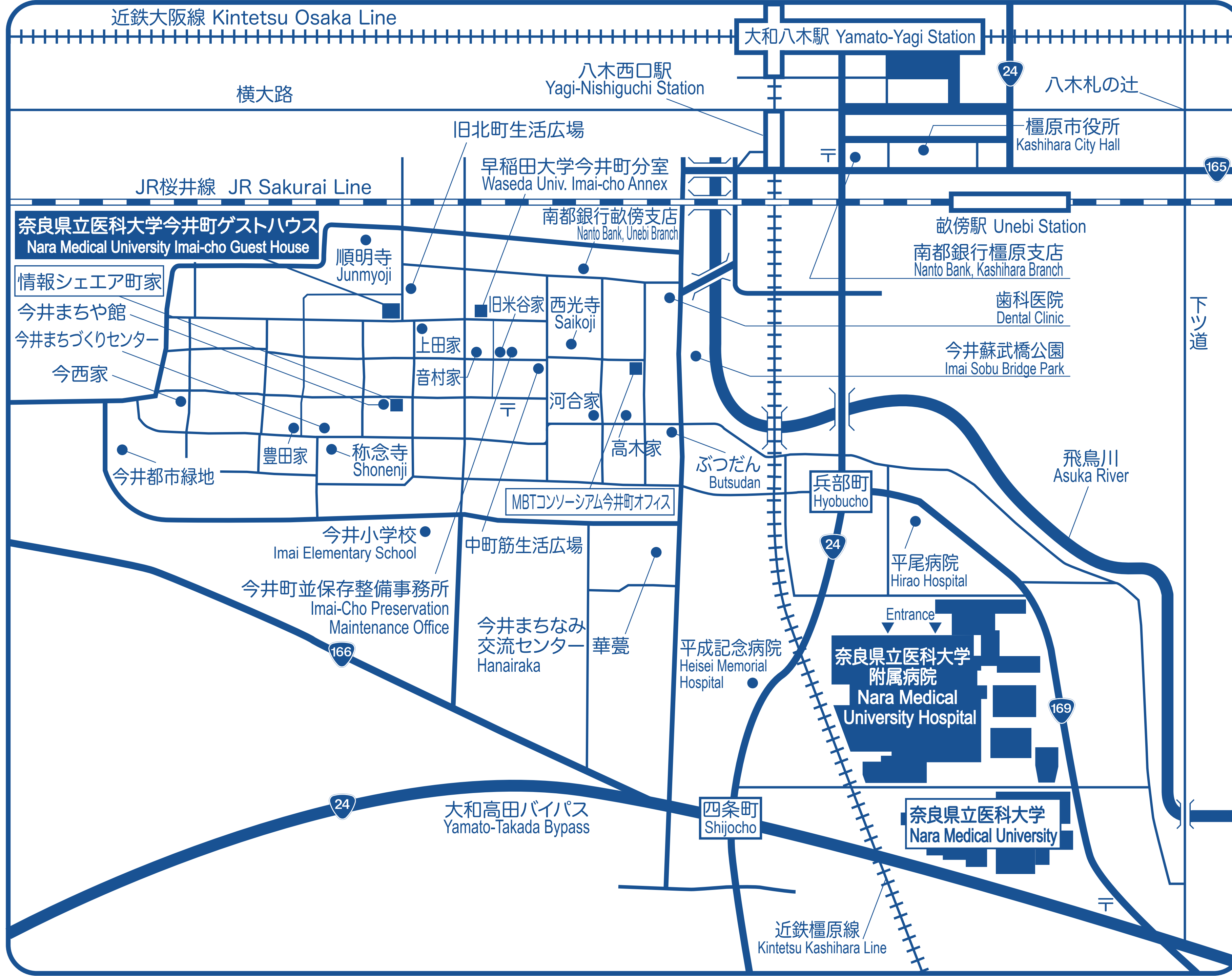


今井町における空き家改修、健康増進活動等による地域連携



近鉄大阪線 Kintetsu Osaka Line

大和八木駅 Yamato-Yagi Station

横大路

八木西口駅
Yagi-Nishiguchi Station

24

八木札の辻

JR桜井線 JR Sakurai Line

旧北町生活広場

早稲田大学今井町分室
Waseda Univ. Imai-cho Annex

橿原市役所
Kashihara City Hall

165

奈良県立医科大学今井町ゲストハウス
Nara Medical University Imai-cho Guest House

南都銀行畝傍支店
Nanto Bank, Unebi Branch

畝傍駅 Unebi Station

南都銀行橿原支店
Nanto Bank, Kashihara Branch

順明寺
Junmyoji

歯科医院
Dental Clinic

情報シェア町家

今井まちや館

今井まちづくりセンター

今西家

上田家

旧米谷家

西光寺
Saikoji

今井蘇武橋公園
Imai Sobu Bridge Park

音村家

河合家

高木家

今井都市緑地

豊田家

称念寺
Shonenji

ぶつだん
Butsudan

兵部町
Hyobucho

飛鳥川
Asuka River

MBTコンソーシアム今井町オフィス

今井小学校
Imai Elementary School

中町筋生活広場

平尾病院
Hirao Hospital

今井町並保存整備事務所
Imai-cho Preservation
Maintenance Office

今井まちなみ
交流センター
Hanairaka

平成記念病院
Heisei Memorial
Hospital

奈良県立医科大学
附属病院
Nara Medical
University Hospital

166

華薨

Entrance

169

24

大和高田バイパス
Yamato-Takada Bypass

四条町
Shijocho

奈良県立医科大学
Nara Medical University

近鉄橿原線
Kintetsu Kashihara Line

下ツ道

奈良医大 今井町ゲストハウス 施設概要

所在地 : 奈良県橿原市今井町

規模等 : 木造 地上2階建

建築面積 : 111.43m²

延床面積 : 158.43m²

居室数 : 4

工事開始 : 2016年 4月

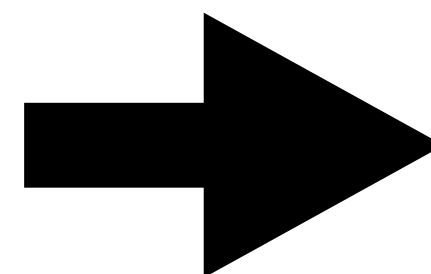
竣工 : 2017年10月

従前施設 : パン工房兼居宅

用途 : 本学に短期間在籍する外国人研修医のための宿泊施設



改修前

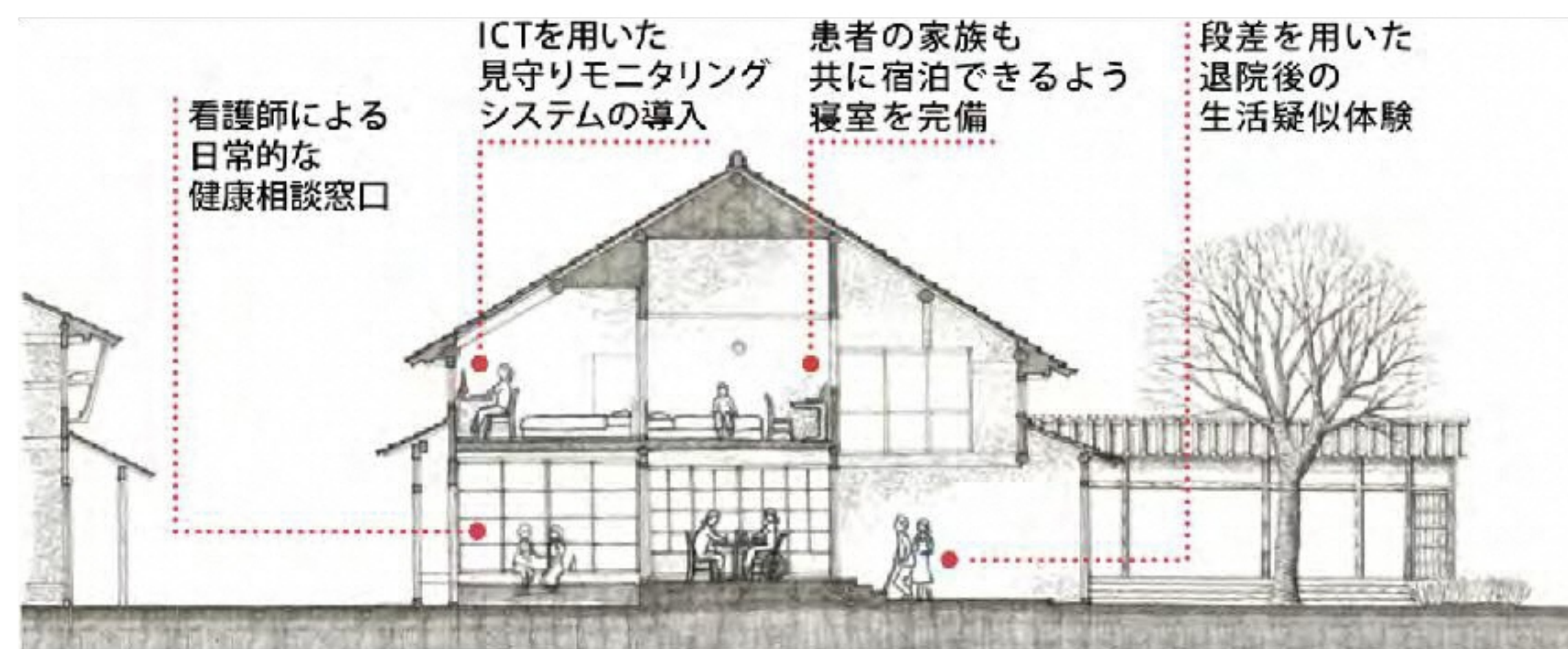
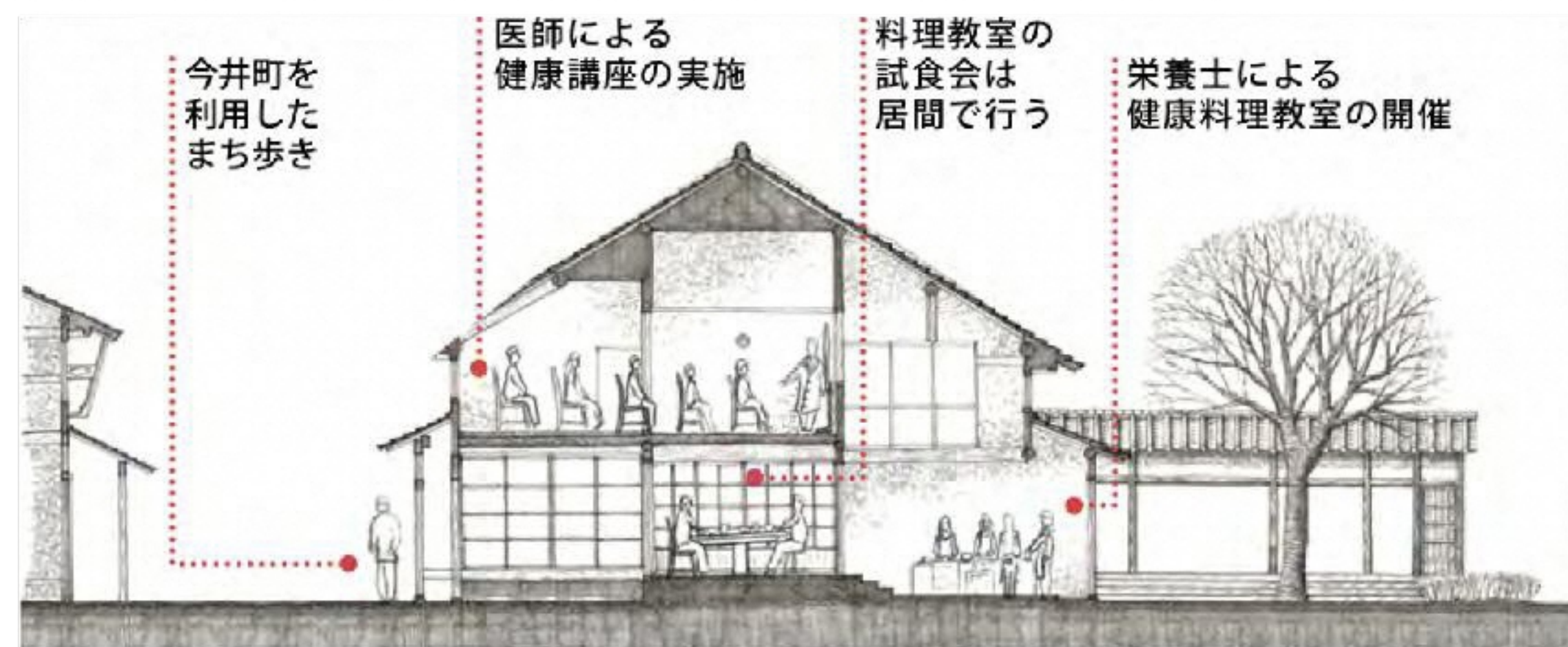
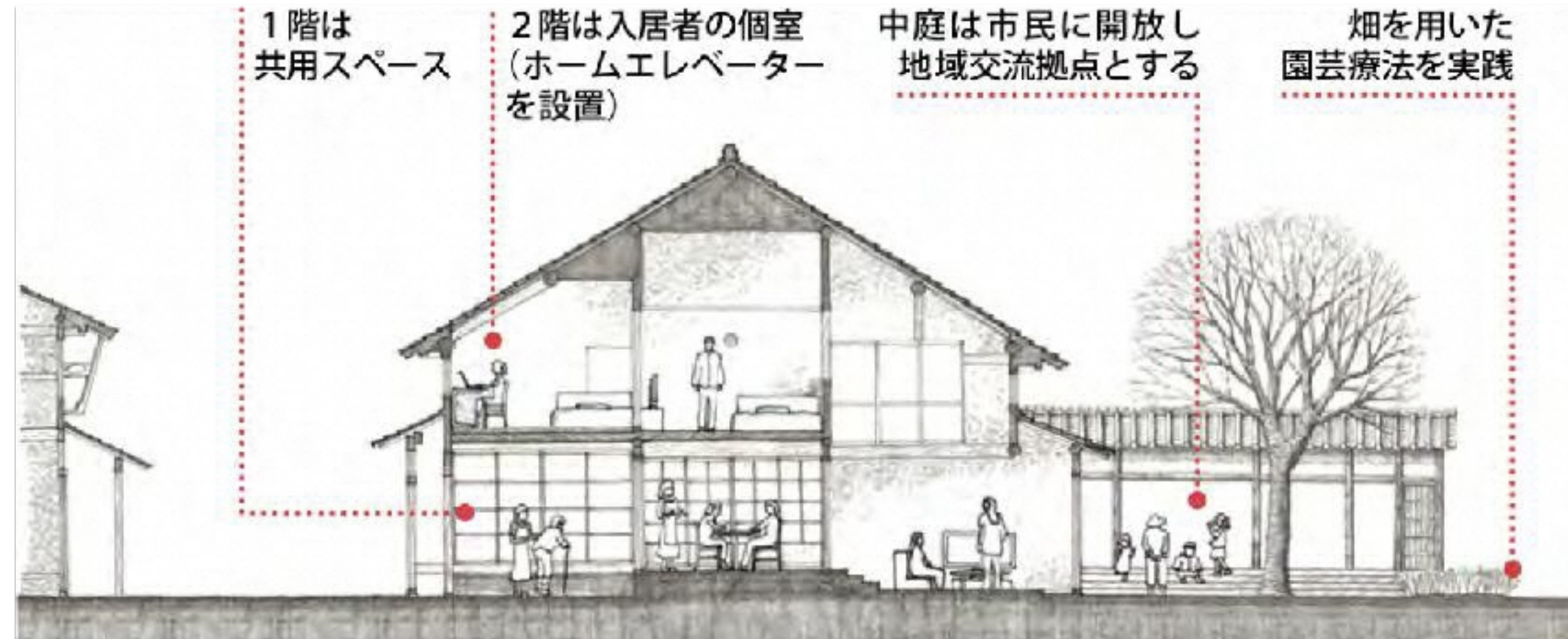


改修後



今井町における空き家活用計画

- 1 外国人研修医・研究者用
ゲストハウス(国際化を推進)
→2017年完成
- 2 地域包括ケアの拠点/地域交流スペースによる
健康教室・健康測定等、介護予防事業
→2018年より実施
- 3 ICTを活用した退院患者のため
の在宅復帰・リハビリ訓練施設
- 4 医大生シェアハウス(地域住民との交流を促進)
→(医大生でなく若者ではあるが)2020年より実施
- 5 健康見守り実験住宅 今後は医大生も取り込む予定
- 6 漢方外来・漢方カフェ・漢方薬局兼物産店



MBTの地域貢献活動

今井町での MBT 活動

奈良橿原市今井町において地域住民を対象に 「健康教室」を月2回の頻度で実施

奈良県立医科大学 MBT 研究所は今井町自治会と共催で、地域住民を対象に健康教室を継続して行っています。場所は橿原市による整備によって2018年にオープンした施設「まちや館別館」、開催頻度は月2回程度で、どなたでも参加可能とし参加費は当面無料としています（将来的には有料とすることも選択肢の一つである）。

理学療法士の指導による、主に着座したままの健康体操のほか、メタボや疲労度測定などを行い、地域住民の健康増進に寄与しています。現時点では試験的な位置づけではありますが、将来的にはさまざまな企業、地域の社会福祉協議会、介護事業所などと連携し地域包括ケアを推進する事業の一つとして展開していきたいと考えています。



医学の力を使って、まちづくりを通じ、社会に貢献する

● 檀原市今井町にて健康測定・健康教室を月2回開催



※早稲田大学との共同研究「戦略的創造研究推進事業」の一環

● 檀原市今井町にて音楽療法、認知症予防教室を各月1回開催



※本学老年看護学教室との共同事業

- ・ 地域レベルで運動不足を解消し、気軽楽しく健康の見える化
- ・ 閉じこもりがちな独居世帯の孤立防止
- ・ 住民同士の出合いやつながり、自助の力を強化
- ・ 地域の中で、住民同士で、ちょっとした見守りができるコミュニテケアを実現
- ・ 健康関連機器を開発・改良

開始当初は大学が関与しても、いかにして地域住民主体で自走し継続させていくか、その仕組みづくりが重要

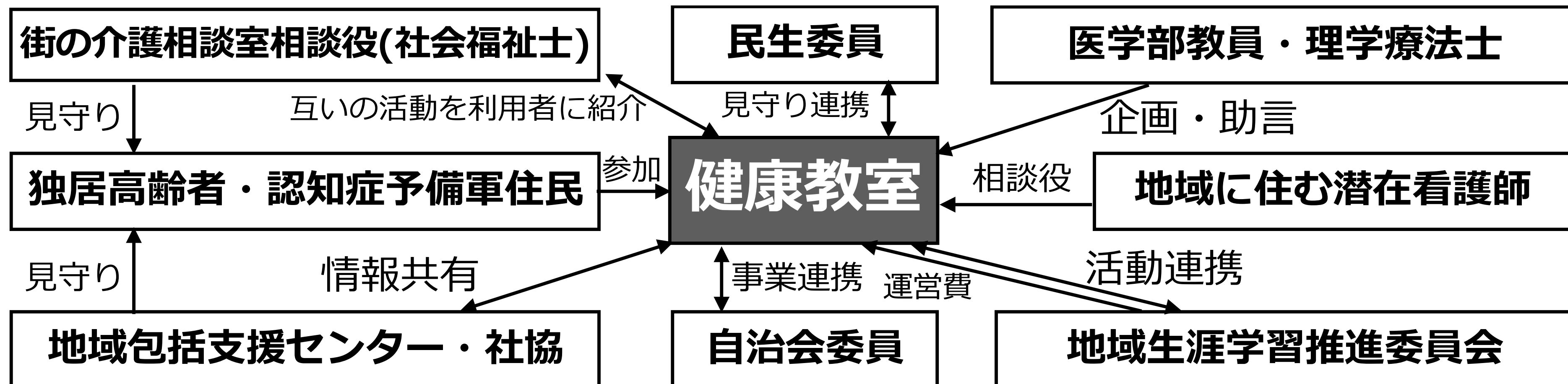
健康教室の評価と提案

参加者からの健康教室に対する意見

健康についての知識が増えた。また、その知った情報を周りに教えるようになった。
体重を意識し、少しずつ減少する、という上半身の運動は初めてで、よい体験であった。
肩こりがましになったので、長く続けてほしい。
友人が増えた。
肩こりがなくなり動きやすくなった。
地域の方々と親しく声かけができるようになり、地域の行事などよく知ることができるようになった。
かかと上げ下げなど、座ってできる運動を仕事中でも心がけている。

各関係者からの健康教室に対する意見

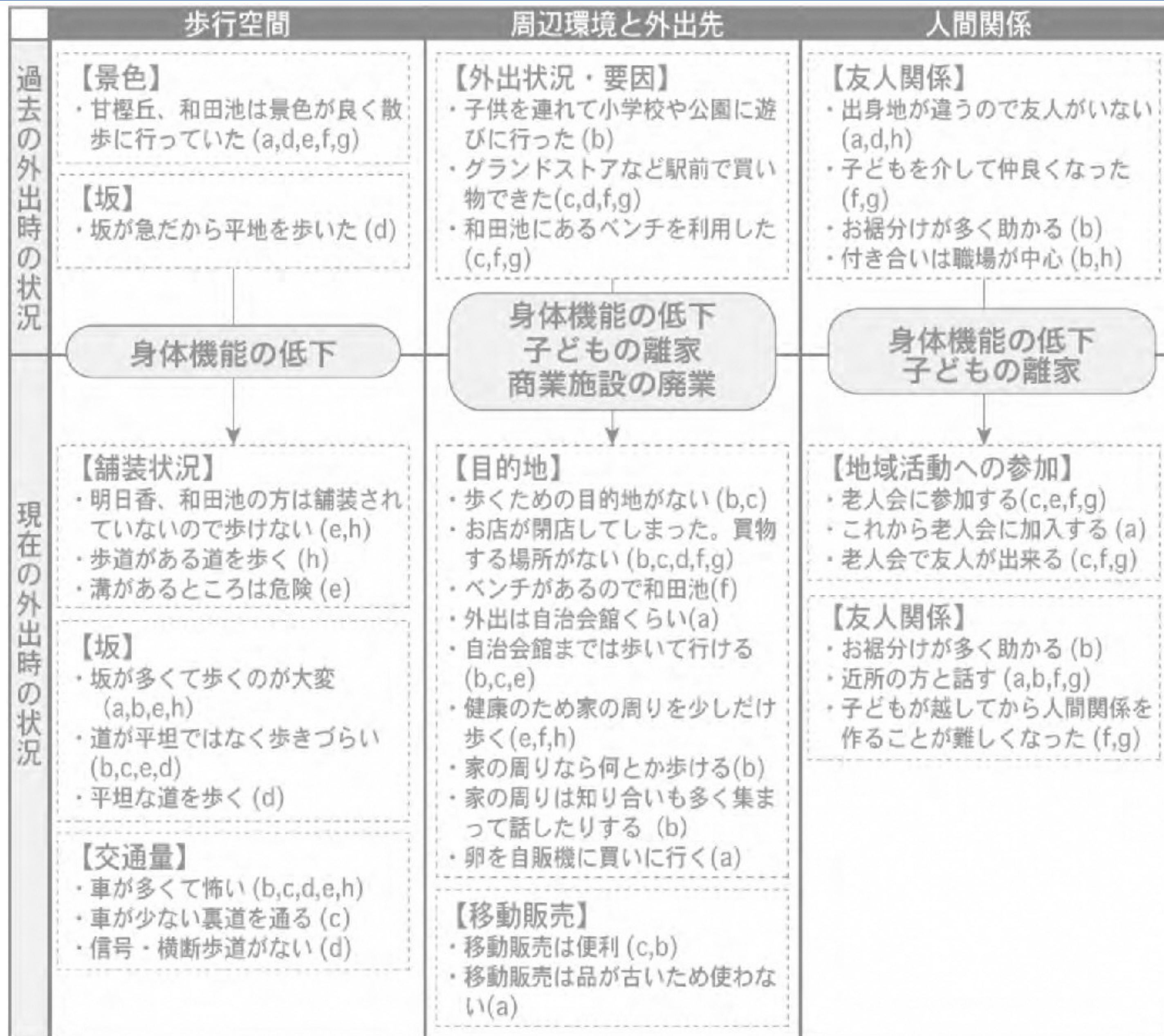
<input type="checkbox"/> 今井町自治会長 ・大変意味のある取組なので、継続して取組んでもらいたい。
<input type="checkbox"/> 檀原市健康部地域包括支援課長 ・檀原市の取り組みとうまく連携と棲み分けができるとよい。できれば隔週1回ではなく、毎週1回開催していただきたい。
<input type="checkbox"/> 檀原市教育委員会社会教育課長 ・市内の地区公民館等、施設をもっと活用してほしいので、できれば市内他地区へも同様の取り組みを広げてほしい。
<input type="checkbox"/> かしはら街の介護相談室相談員 (本業は市内にある社会福祉法人の訪問看護師) ・独居高齢者や認知症予備軍の住民の把握に努めているが、ぜひそうした人たちも健康教室があることをお知らせし、興味がある方に対しては参加を促したい。 ・現在の健康教室参加者に対して、自身や家族についての悩み事があれば、かしはら街の介護相談室を紹介してほしい。
<input type="checkbox"/> 地域福祉推進委員 ・効果的な取り組みなので、ふれあいサロンの参加者にも声をかけ、健康教室への参加を促したい。



健康教室のめざすべき関係図：地域包括ケアの実現に向けて

郊外ニュータウンに居住する高齢者の歩行継続要因

佐藤宏亮、和田朋憲、遊佐敏彦、日本都市計画学会都市計画論文目次論文集Vol.53 No.3 (2018)



外出環境に
対する意識変化